

HONDA

The Power of Dreams

Hondaの環境取り組み



本田技研工業株式会社
経営企画部
環境安全企画室

本日のテーマ

- 1. Hondaの概要**
- 2. Hondaの環境取り組み**
- 3. 最新トピックス**
- 4. サプライチェーンへの取り組み**
- 5. 終わりに**

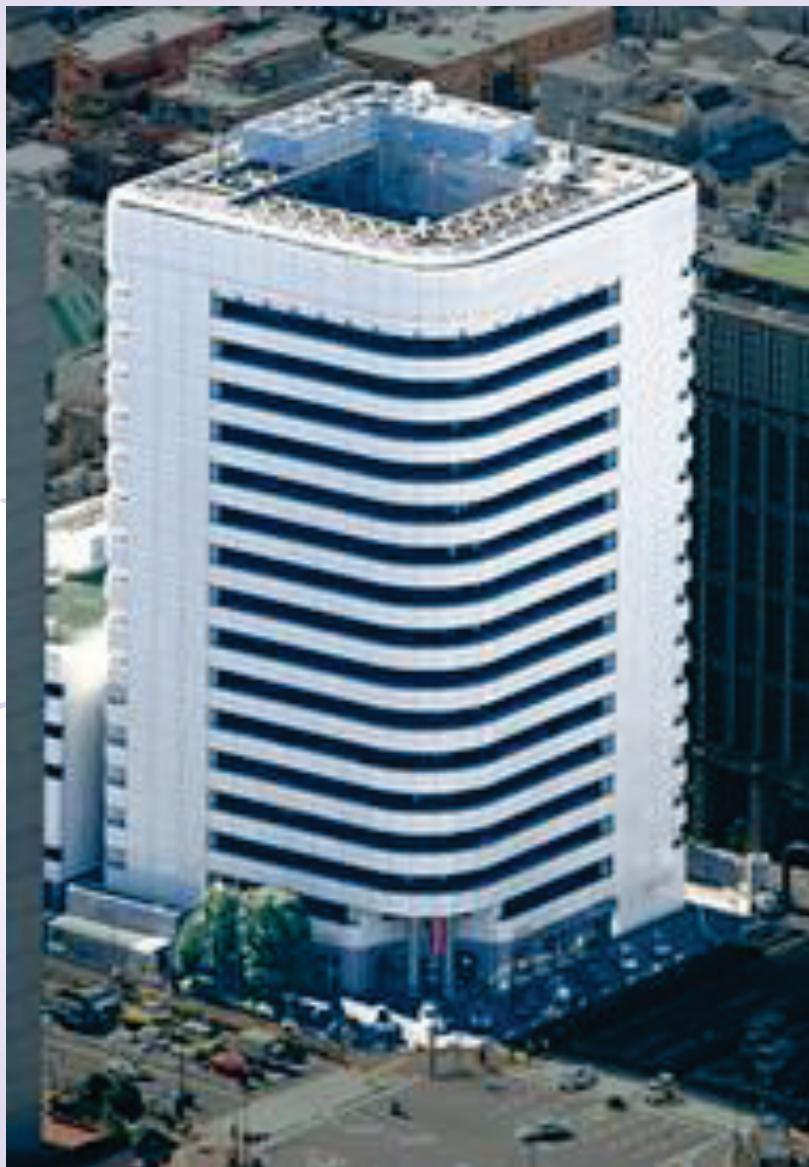


BLUE SKIES FOR
OUR CHILDREN

1. Hondaの概要



BLUE SKIES FOR
OUR CHILDREN



社名 : 本田技研工業株式会社
本社 : 東京都港区南青山2-1-1
設立 : 1948年（昭和23年）9月
代表者 : 代表取締役 社長執行役員
八郷 隆弘
資本金 : 860億6716万円
売上高 : 12兆6467億円（連結）
純利益 : 5227億円
従業員数 : 203,902人

※2015年3月31日現在

モビリティー



2. Hondaの環境取り組み

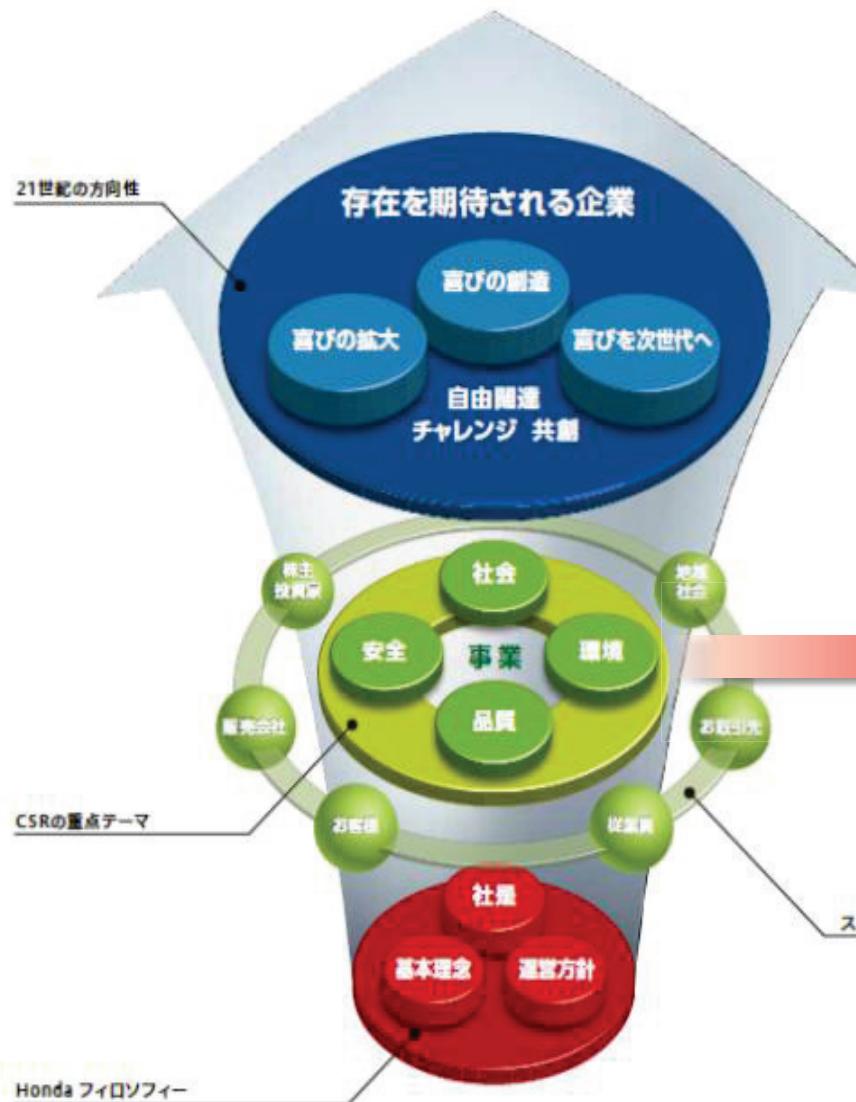


BLUE SKIES FOR
OUR CHILDREN

Honda 環境問題への考え方

Hondaグローバル
ブランドスローガン

HONDA
The Power of Dreams



1 Honda環境宣言

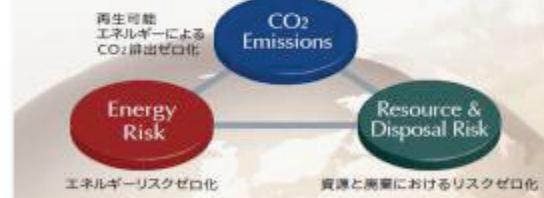
2 Honda環境・安全ビジョン
「自由な移動の喜び」と
「豊かで持続可能な社会」の実現



3 環境側面の重要課題

気候変動問題
エネルギー問題
資源の有効活用

4 環境負荷ゼロ社会をめざすコンセプト
Triple ZERO



5 環境負荷低減への対応

製品における対応



企業活動における対応



Honda環境宣言

地球環境の保全を重要課題とする社会の責任ある一員として、Hondaは、すべての企業活動を通じて、人の健康の維持と地球環境の保全に積極的に寄与し、その行動において先進性を維持することを目標として、その達成に努めます。

以下に、私たちの日々の活動にあたって従うべきガイドラインを示します。

1. 私たちは、商品の研究、開発、生産、販売、サービス、廃棄というライフサイクルの各段階において、材料のリサイクルと、資源、エネルギーの節約に努めます。
2. 私たちは、商品のライフサイクルの各段階で発生する廃棄物、汚染物質の最少化と適切な処理に努めます。
3. 私たちは、企業の一員として、また社会の一員として、人の健康の維持と地球環境の保全に努力することが重要であると認識し、積極的に行動することに努めます。
4. 私たちは、事業所の活動が、それぞれの地域の人たちの健康と環境や社会に対し及ぼす影響について認識し、社会から高い評価をいただけるように努めます。

1992年6月制定・発表

すべての企業活動
において

ライフサイクルで節約

廃棄物の適切な処理

社会の一員であることを
認識し積極的に行動

社会から高い評価を
頂けるように努める

「自由な移動の喜び」と 「豊かで持続可能な社会」の実現

Realizing “the joy and freedom of mobility” and
“a sustainable society where people can enjoy life”

Hondaは、すべての人が、心から安心して、どこへでも自由に移動することができる社会をつくることを目指して、「Honda環境・安全ビジョン」を定めました。このビジョンには、パーソナルモビリティーに関わる製品・サービスを通して、お客様に感動を提供し続け、社会の永続的な発展と調和に貢献していきたい、というHondaの強い想いが込められています。

Safety for Everyone
すべての人の安全をめざして

Hondaグローバル安全スローガン・ロゴ

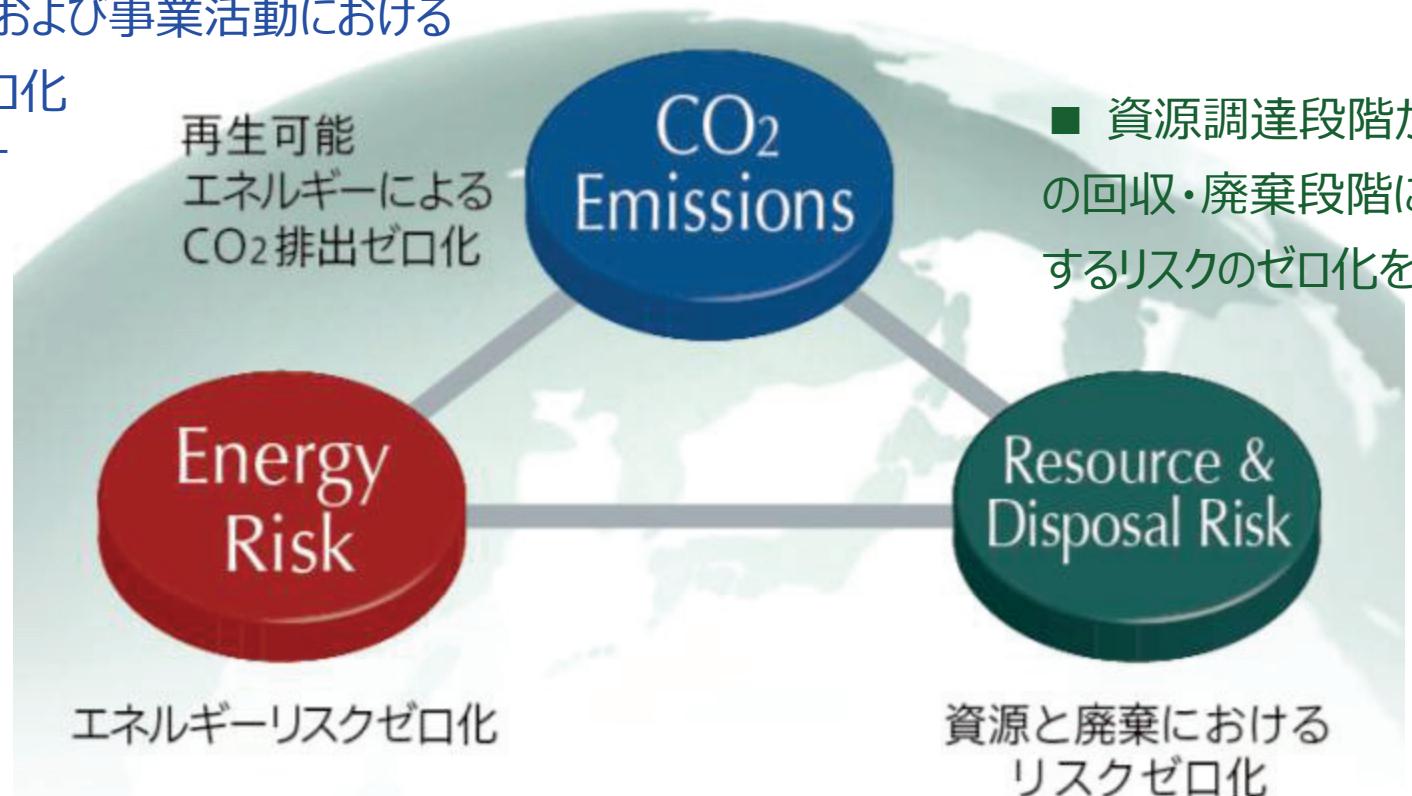


BLUE SKIES FOR
OUR CHILDREN
子供たちに青空を

Hondaグローバル環境シンボル

Triple ZERO

■再生可能エネルギーを活用することで、
将来的に製品および事業活動における
CO2排出をゼロ化
することをめざす



■ 資源調達段階から使用済み製品
の回収・廃棄段階に至るまでに発生
するリスクのゼロ化をめざす

■ 化石燃料への高依存などによるエネルギーリスクの
将来的なゼロ化をめざします。

- ・「気候変動問題」「エネルギー問題」に対応するためには製品から排出されるCO₂排出低減が最も重要と考え、新たに2020年を目標年とした「2020年製品CO₂低減目標」を策定しました。
- ・2020年に向けては、これまでの方向性を継承しつつ、製品燃費・CO₂燃費規制の強化など社会の要請の高まりを受け、それに先駆ける低炭素技術の更なる革新と、その普及拡大を加速していきます。

2020年製品CO₂低減目標(2000年比)



NC750S



Accord PHEV



HLS2511

Hondaの製品から
排出される
CO₂の全世界平均値

30%低減
g/km当たり

30%低減
g/km当たり

30%低減
kg/1時間当たり

2014年度 製品使用時のCO₂排出量原単位



2000年比
-33.7%

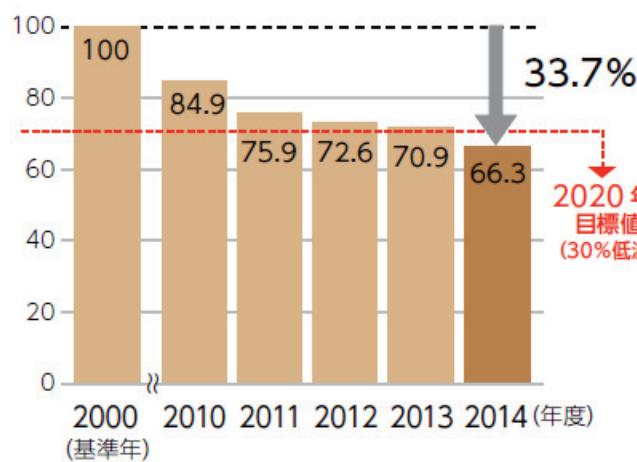


2000年比
-20.8%

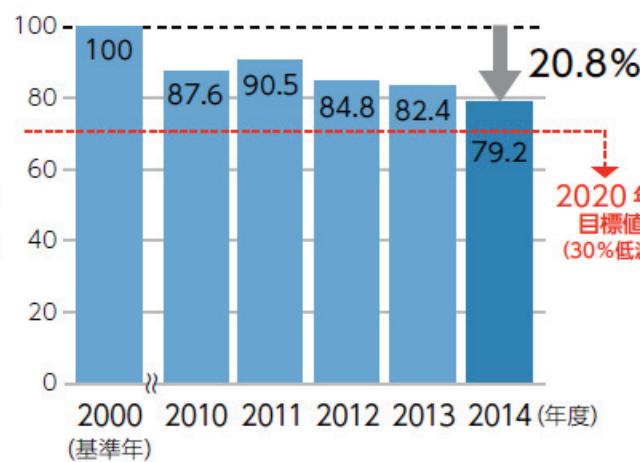


2000年比
-13.3%

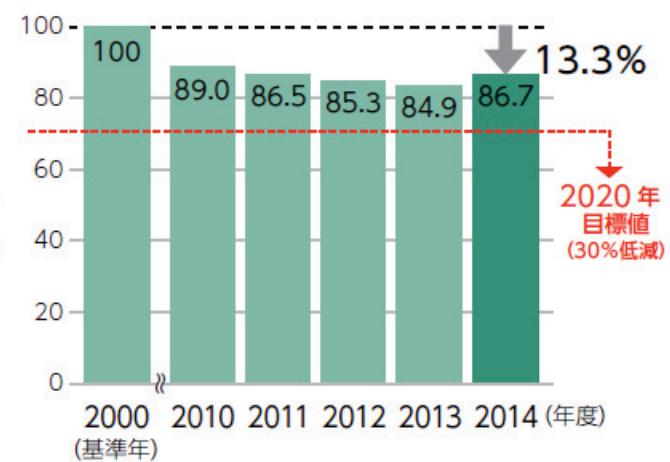
二輪車(g/km当たり)



四輪車(g/km当たり)



汎用製品(kg/1時間当たり)



気候変動情報の把握と開示

★ 「GHGプロトコル・イニシアティブ」はWRIとWBCSDが共催にて概算方法を定義)

GHG(温室効果ガス)

CO₂

CH₄

N₂O

HFC₅

PFC₅

SF₆

Scope3
その他の排出
(上流)

カテゴリー 1
購入した
製品・サービス

カテゴリー 2
資本財

カテゴリー 3

Scope1・2に含ま
れない燃料・工社
-関連の活動

カテゴリー 4
輸送・流通
(上流)

カテゴリー 8
リース資産(上流)

カテゴリー 7
従業員の通勤

カテゴリー 6
出張

カテゴリー 5
事業から発生
する廃棄物

Scope2
間接排出

購入電力
・蒸気など

Scope1
直接排出

企業の施設

企業の車両

Scope3
その他の排出
(下流)

カテゴリー 9
輸送・流通(下流)

カテゴリー 10
販売した
製品の加工

カテゴリー 11
販売した
製品の使用

カテゴリー 12
販売した製品
の処理

カテゴリー 15
投資

カテゴリー 14
フランチャイズ

カテゴリー 13
リース資産(下流)

企業活動 の上流

企業活動

企業活動 の下流

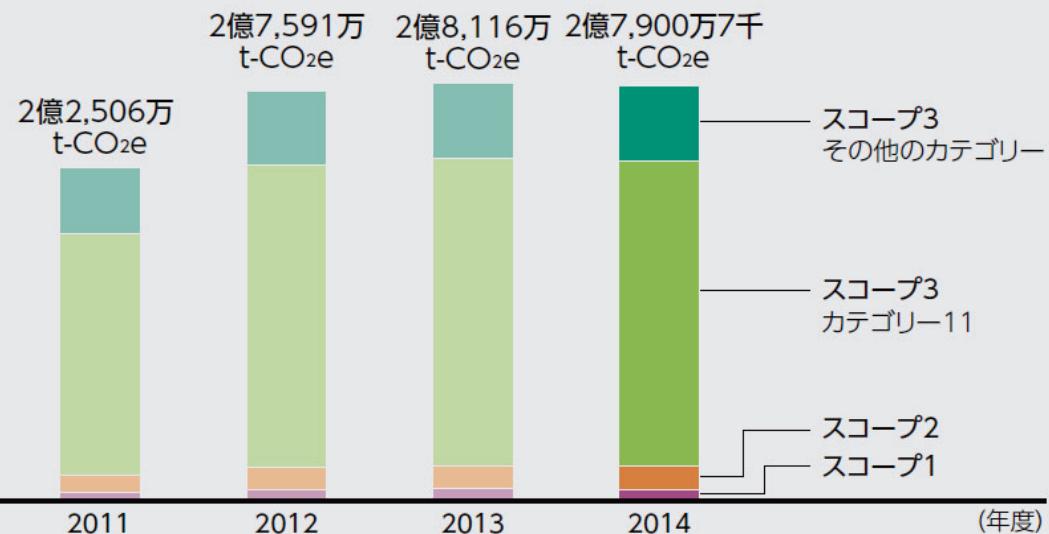
**GHG算定・報告のデファクトスタンダード「GHGプロトコル・イニシアティブ」は、
3範囲(スコープ)に区分して排出総量を把握・計上する**

2014年度温室効果ガス総排出量

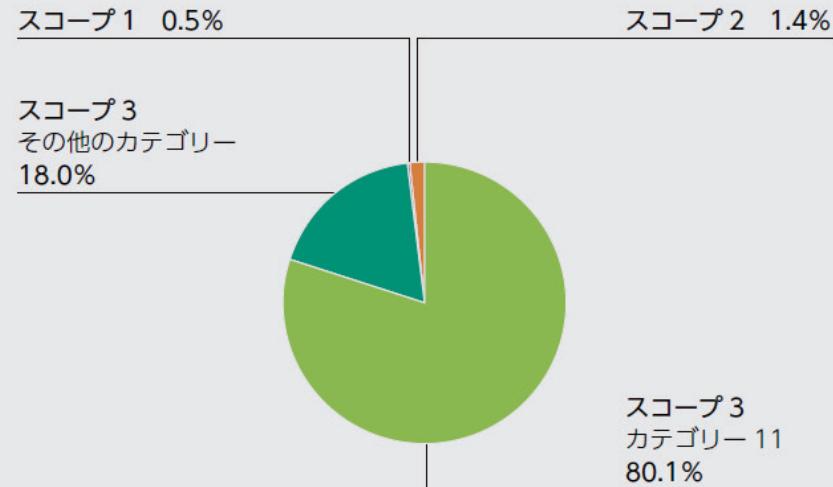
● Honda のバリュー・チェーン全体における温室効果ガス排出量

		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
	Hondaのバリュー・チェーン全体の排出（スコープ1・2・3の合計）	2億2,506万t-CO ₂ e	2億7,591万t-CO ₂ e	2億8,116万t-CO ₂ e	2億7,900万7千t-CO ₂ e
内訳	企業活動による直接排出 (スコープ1)	124万t-CO ₂ e	141万t-CO ₂ e	141万t-CO ₂ e	137万6千t-CO ₂ e
	エネルギー利用による間接排出 (スコープ2)	296万t-CO ₂ e	354万t-CO ₂ e	380万t-CO ₂ e	386万4千t-CO ₂ e
	Hondaの企業活動による排出 (スコープ1・2合計)	420万t-CO ₂ e	495万t-CO ₂ e	521万t-CO ₂ e	524万t-CO ₂ e
	製品の使用による排出 (スコープ3・カテゴリー11)	1億9,588万t-CO ₂ e	2億2,595万t-CO ₂ e	2億2,814万t-CO ₂ e	2億2,354万2千t-CO ₂ e
	その他の排出 (スコープ3・他のカテゴリー)	2,498万t-CO ₂ e	4,501万t-CO ₂ e	4,781万t-CO ₂ e	5,023万t-CO ₂ e
	その他の間接排出 (スコープ3合計)	2億2,086万t-CO ₂ e	2億7,096万t-CO ₂ e	2億7,595万t-CO ₂ e	2億7,376万7千t-CO ₂ e

2011年度～2014年度 温室効果ガス排出総量の推移



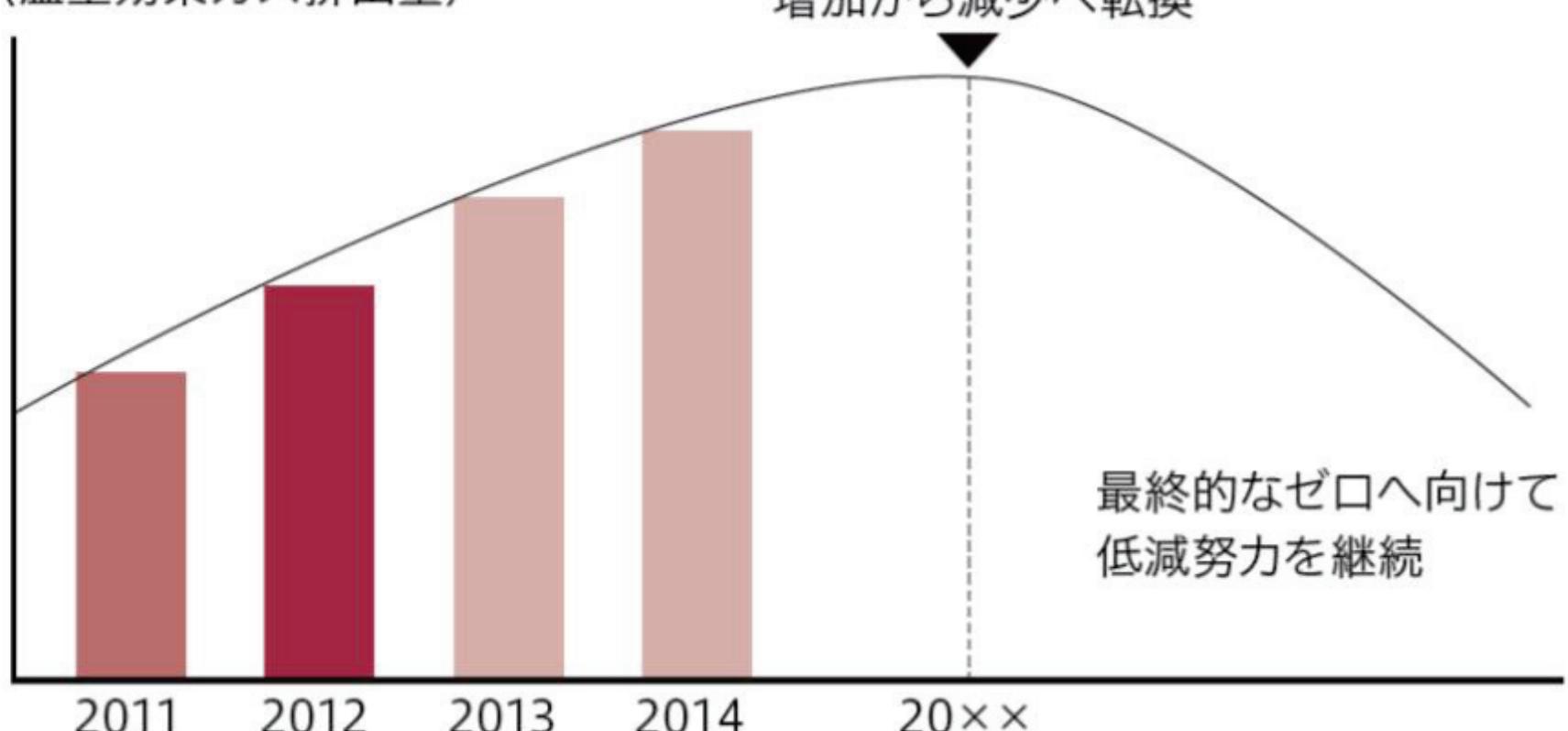
2014年度 温室効果ガス排出総量の内訳



2014年度温室効果ガス総排出量

● Honda のバリュー・チェーン全体における温室効果ガス排出量

〈温室効果ガス排出量〉



Hondaの温室効果ガス排出総量 推移イメージ

3. 最新トピックス



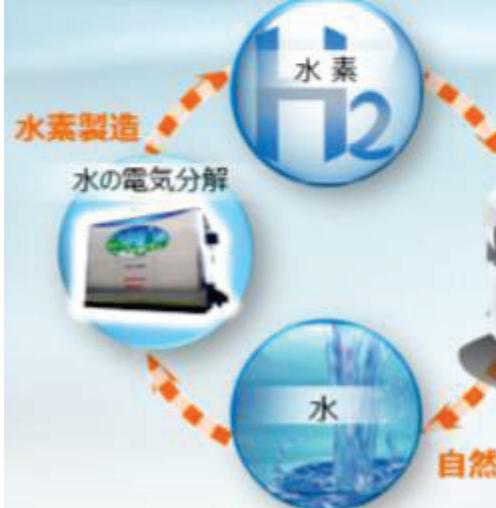
BLUE SKIES FOR
OUR CHILDREN

つくる

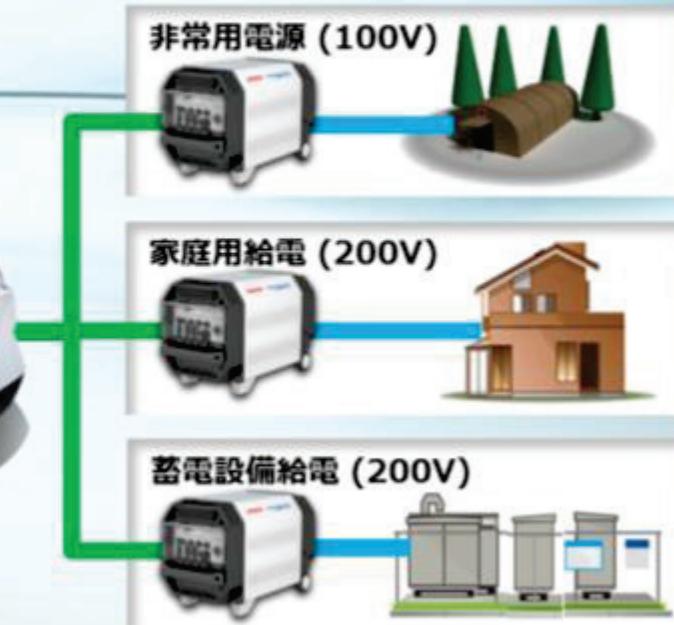
つかう

つながる

再生可能エネルギー



Honda
CLARITY
FUEL CELL



3つのコンセプトで、CO₂ゼロ社会を目指す

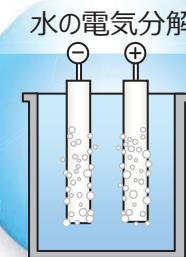
つくる

つかう

つながる



水素製造



水素

H₂

再生可能
エネルギー

燃料電池からの
電力による走行



電力

自然への還元



2001

2012

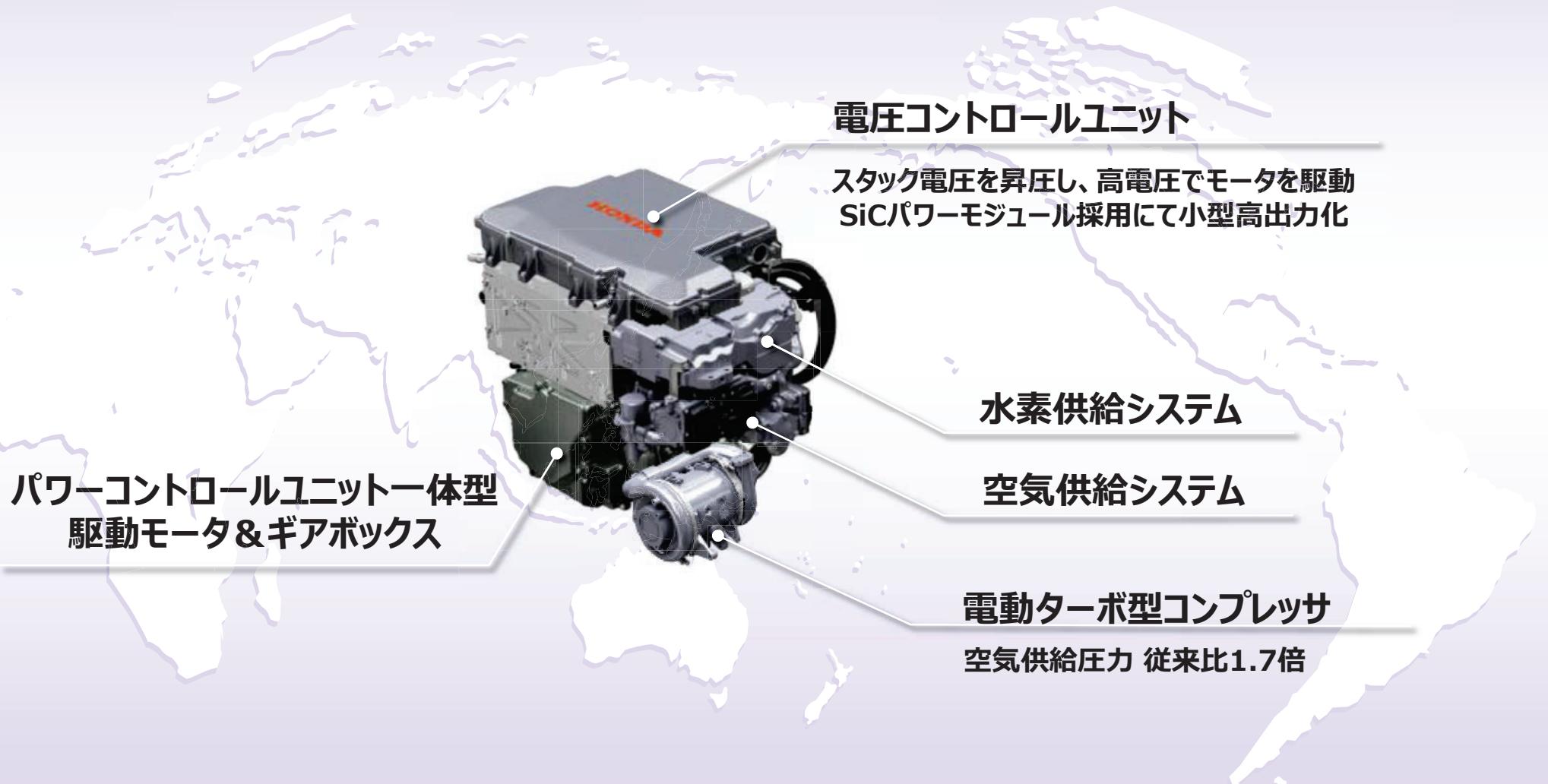
2014



つくる

つかう

つながる



つくる

つかう

つながる

CLARITY
FUEL CELL



Specification	
燃料電池スタック出力	100kW 以上
航続距離	700km 以上 ※1
乗車定員	5名
水素タンク充填圧力	70MPa (700気圧)
充填時間	3分程度 ※2

※1 JC08モード、社内測定値
※2 水素充填条件によっては、充填時間が変わるものがあります

つくる

つかう

つながる

“クルマとつながる。暮らしへひろがる。”

- 燃料電池自動車と簡単に接続し、最大9kWを出力
- Hondaインバータ発電機で培った信頼性と高品質なAC出力
- V2L ガイドライン* 準拠した高い汎用性
- アウトドアでも、非常用電源にも使用可能



POWER EXPORTER 9000



AC100V 3kVA

一般家電向け給電

単相三線100/200V 6kVA

避難所等の大型暖房、大型エアコン
電磁調理器

* V2L ガイドライン：「電動自動車用充放電システムガイドライン」、電動車両用電力供給システム協議会により定められた電気安全および車両と接続機器の互換性を確保するために作成された規格です

4. サプライチェーンへの取り組み



BLUE SKIES FOR
OUR CHILDREN

ライフサイクルでのCO₂低減

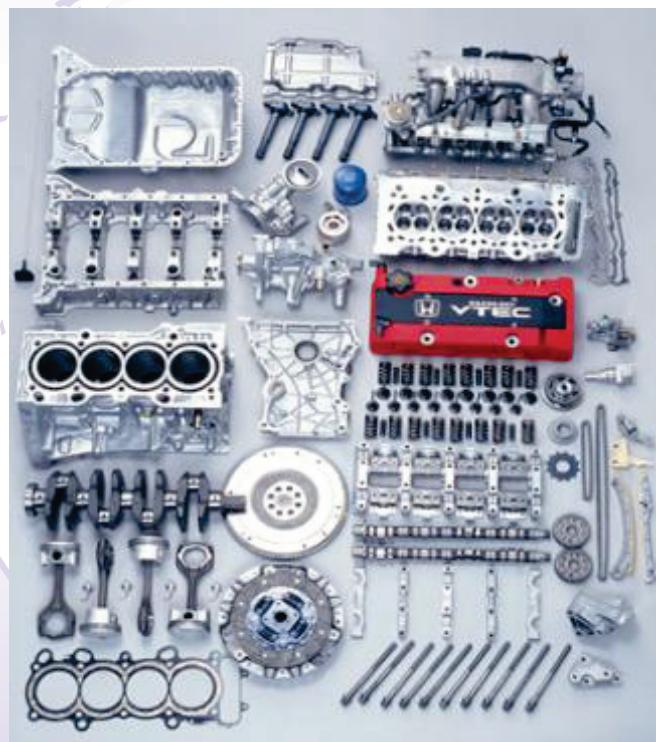


ライフサイクル観点（Scope 1・2・3）での温室効果ガス低減を目指す
・サプライチェーン全体で各社と共同した取り組みが不可欠

● Honda 購買部門の役割

「購買理念」「購買3原則」を通して、公平、公正、かつ透明性の高い取引を行います。

- ・製品に使用する部品の調達
- ・品質やコストの管理
- ・新技術の開発促進



購買理念

良い物を、適正な価格で、タイムリーにかつ、
永続的に調達する

購買3原則

1.「自由な取引」 2.「対等な取引」 3.「お取引先の尊重」

1.「自由な取引」

わたしたちは、品質や量、価格、タイミングを満足し、かつサステナビリティに対する考え方を共有できるお取引先と、自由競争に基づく取引を行います。

2.「対等な取引」

わたしたちは、企業規模や国籍等にかかわらず、お取引先と対等の立場で取引を行います。

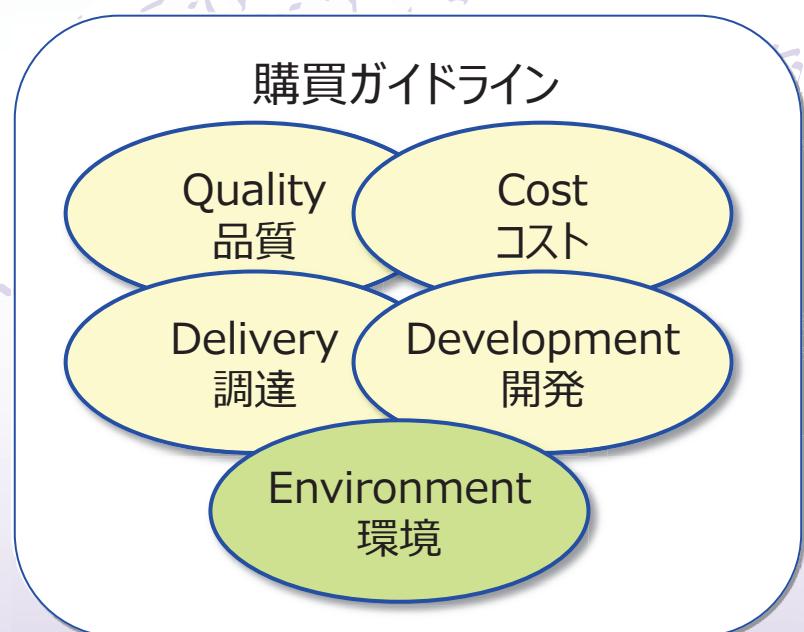
3.「お取引先の尊重」

わたしたちは、お取引先の経営とその主体性を尊重します。

お取引先にご協力いただき、世界中のお客様に製品を提供していく

● グローバル購買環境ビジョン

- ・お取引先と考え方を共有して、協力をお願いする
- ・地域社会と共に存共栄する企業活動をグローバルで実現



Honda環境・安全ビジョン

「自由な移動の喜び」と「豊かで持続可能な社会」の実現



〈志〉 「お客様の期待を上回るQCDDEを提供し続けるために
地域社会と共に存共栄する企業活動をグローバルで実現する」

スローガン

“Green Excellence around the World”
for Exciting and Thrilling Products

〈方針〉

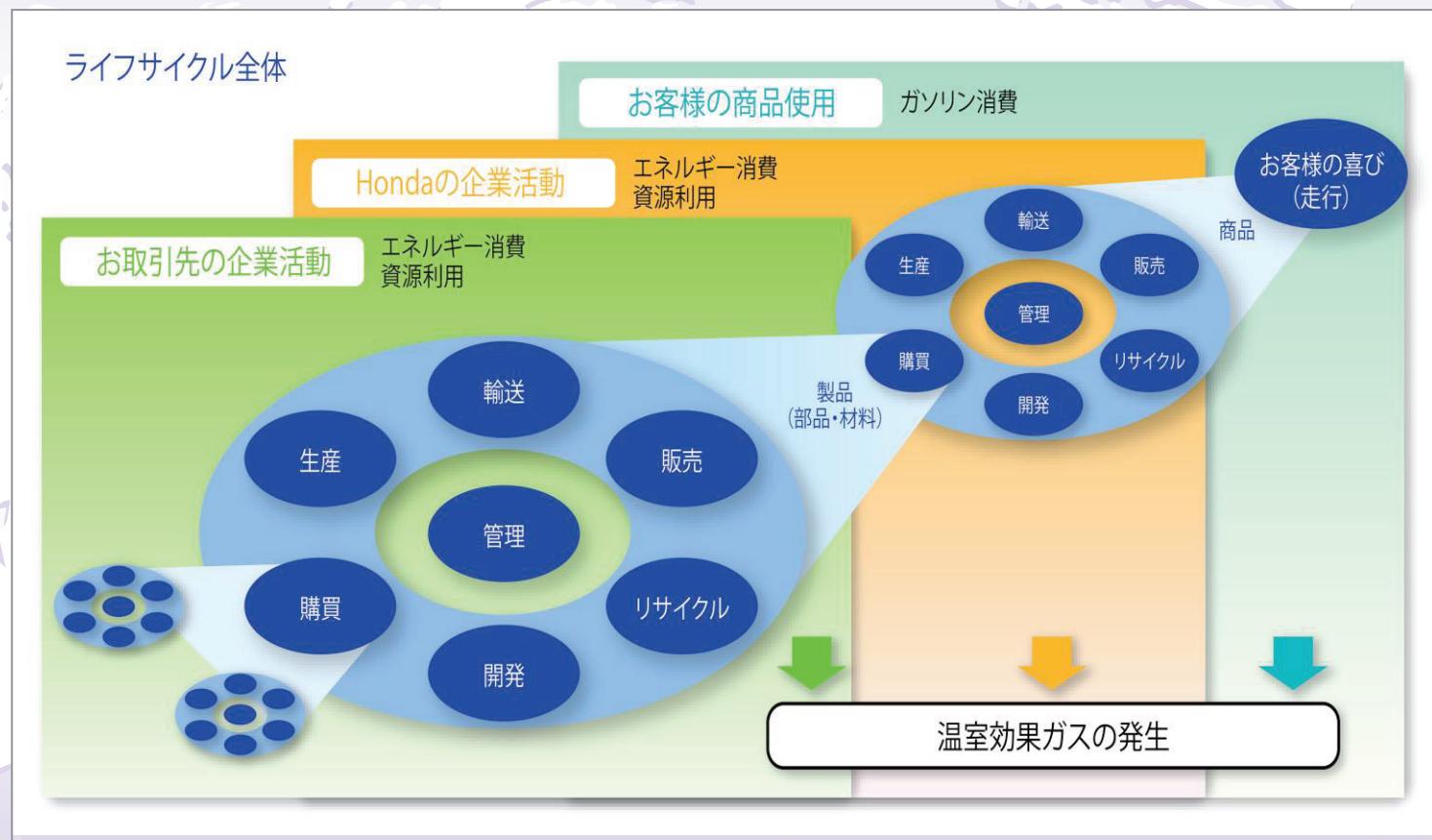
グリーン購買ガイドライン
ライフサイクル観点での温室効果ガス低減

〈実行ステップ〉

環境グランドデザイン
低減PDCA→低炭素グローバルサプライチェーンの確立

● CO₂排出量の「見える化」

- ・サプライチェーン全体を算出、材料メーカーまではかなりの会社数
- ・それぞれ一つ上流のお取引先のCO₂排出量把握を依頼



お取引先のご協力によるサプライチェーン「見える化」の実現

●クラウドサーバーを利用したデータ管理システムの導入

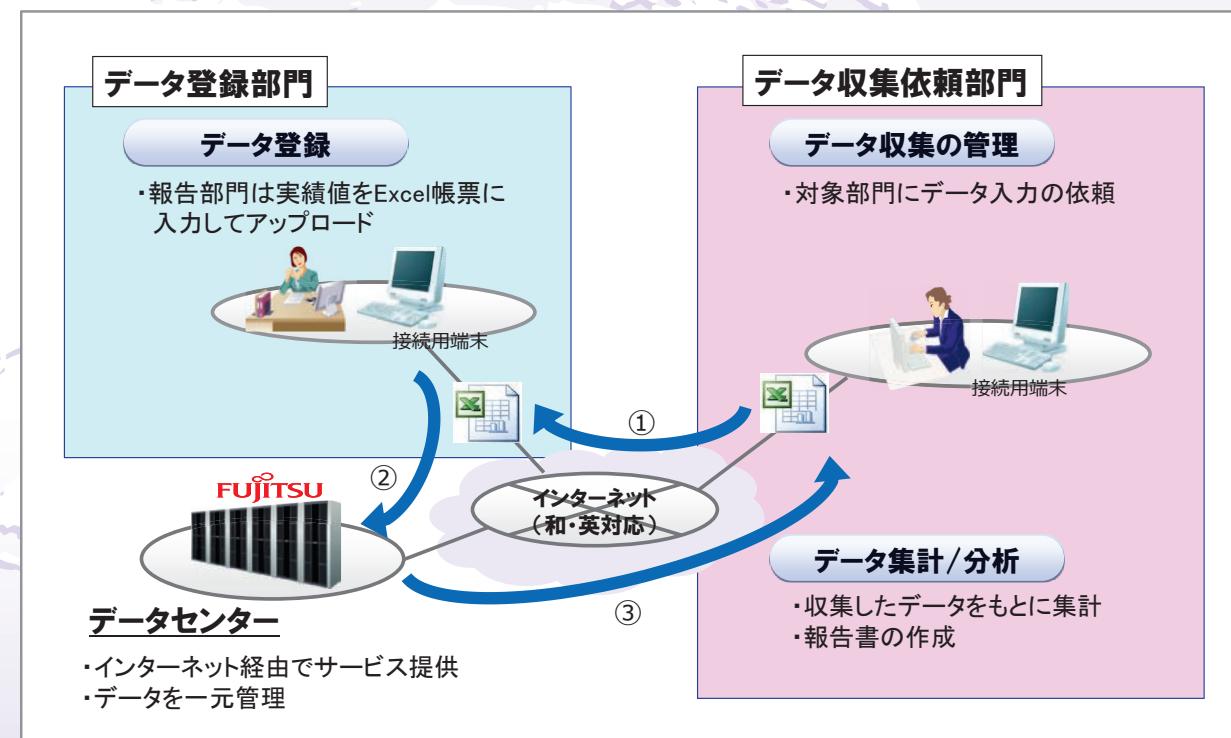
Hondaとお取引先で、膨大な環境データやその分析結果を効率的に共有し、
CO₂排出量の低減につなげる

お取引先の入力内容

- ・排出量データ
- ・原単位
- ・セルフアセスメント

Honda

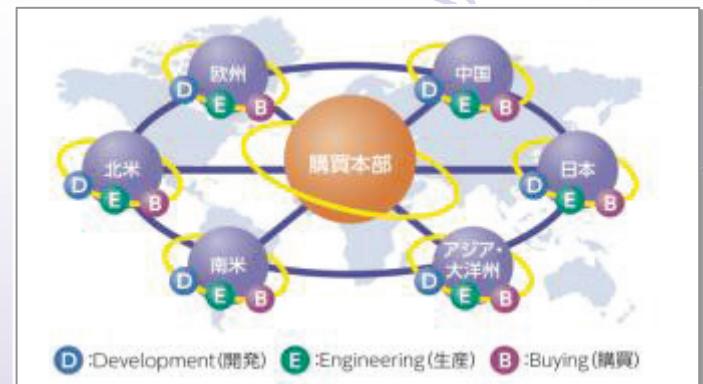
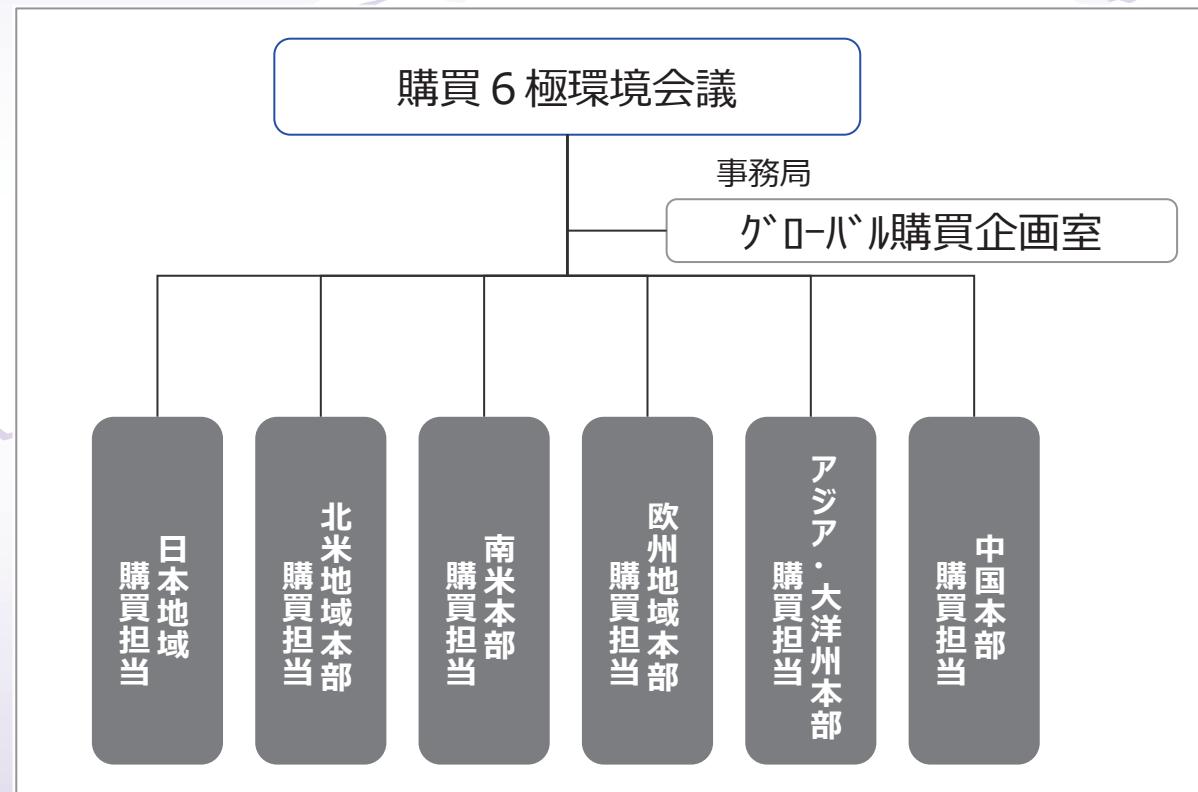
- ・排出量データ集計
- ・分析データ共有
- ・負荷低減ための支援



**クラウドサーバーを利用してグローバルデータの収集
分析データなどを共有して、お取引先の環境負荷低減につなげる**

● 購買 6 極環境会議

- ・Hondaの地域購買実務者が情報共有・議論・整合
- ・各地域間連携を実務者レベルでより強化
- ・各地域でお取引先と共に水平展開につなげる



●環境ドキュメンタリー Face

ニュースリリース | IR・投資家情報 | 採用情報 | リコール | お客様窓口 | World Wide

・クルマ | ・バイク | ・汎用製品 | ・モータースポーツ | ・テクノロジー | ・企業情報 | 検索ワードを入力 |

BLUE SKIES FOR OUR CHILDREN 環境への取り組み

Honda Face Top > CASE42: 本田技研工業(株) 購買部門 EPISODE-1

Honda Face Top ▶ Honda Faceに込めた想い

Face CASE 42 本田技研工業(株) 購買部門

何に取り組んだ? 第4回 購買6極環境会議を開催。
購買部門におけるグローバルでの方針や施策、各地域での課題を共有し、改善に向けた議論と整合を実施。

どんな効果が? Face 本田技研工業(株) 購買部門
販売機構の購買部門の環境取り組みに対する改善施策の策定。
・グローバルでの環境課題に対する認識の統一と方針の策定。

購買部門は、グローバルで“One Team, One Voice”。世界中のお取引先での環境負荷低減を目指します。

EPISODE 1 2 3 次のページへ▶

米国オハイオ州にて、第4回 購買6極環境会議を開催。



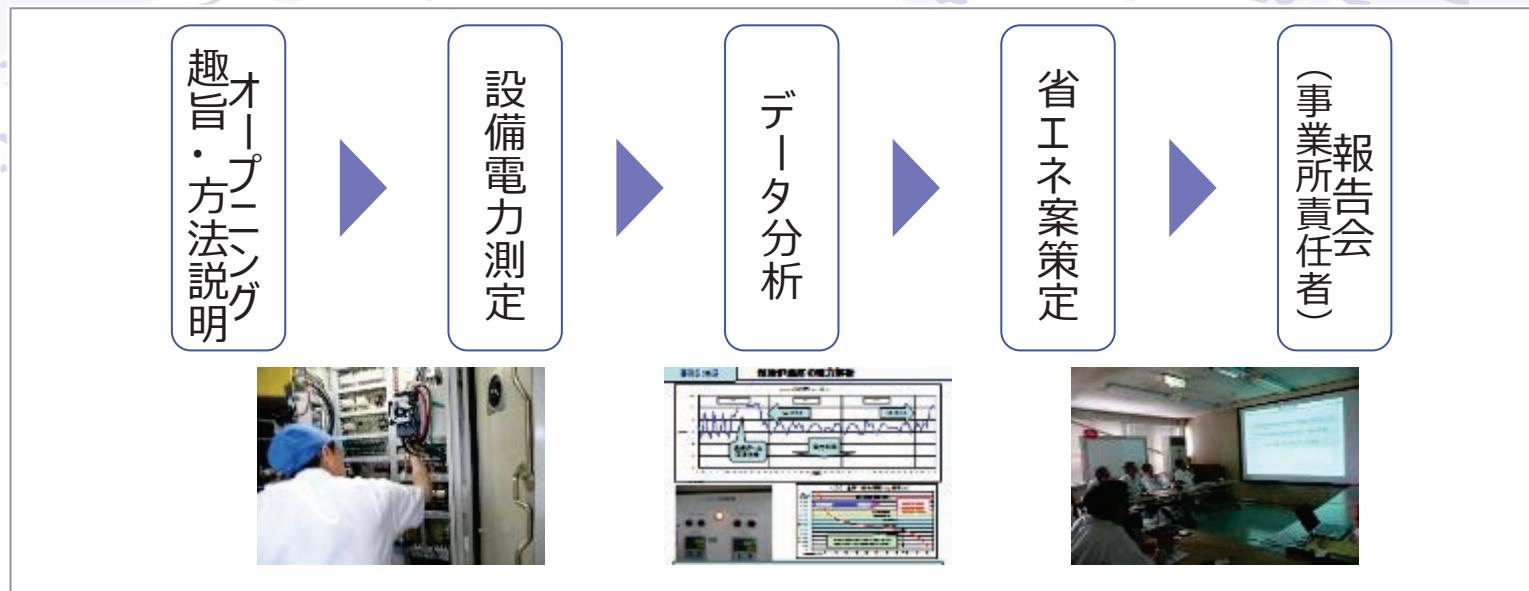
2015年2月3日～4日の2日間にわたり、米国オハイオ州のメアリズビル四輪車工場に隣接するHondaヘリテイジセンターで、第4回 購買6極環境会議が開催されました。購買部門では、これまで3回の会議で、お取引先に環境負荷低減に取り組んでいたく重要性や目指す方向を全地域の購買担当者が共有し、低減取り組みに向けた準備のための整合を実施。今回の会議では、その次のステップとして、お取引先の環境取り組みをより向上するための具体的な施策の議論を行いました。

<http://www.honda.co.jp/environment/face/case42/episode/episode01.html>

- グローバルで一貫した「One Team, One Voice」をお取引先に発信していく
- お取引先との環境取り組みを更に高い水準に引き上げていくための議論
- 各地域でのお取引先へのサポート手法・プロセス共有

●「省エネキャラバン」展開

- Hondaのエキスパートがお取引先を訪問し、設備の稼働状況を確認
- エネルギーの「見える化」を行い、有効な省エネ施策を提案
- お取引先のCO₂低減によるコスト削減などをサポートする



お取引先の品質が良くなる⇒Hondaの品質が良くなる

お取引先のコストが下がる⇒Hondaのコストも下がる

お取引先の環境体質が良くなる⇒Hondaの環境体質が良くなる

● アジア

- ・アジア大洋州地域内の各国、各拠点による展開
- ・お取引先へHondaのエキスパートが訪問
- ・8カ国240社を訪問

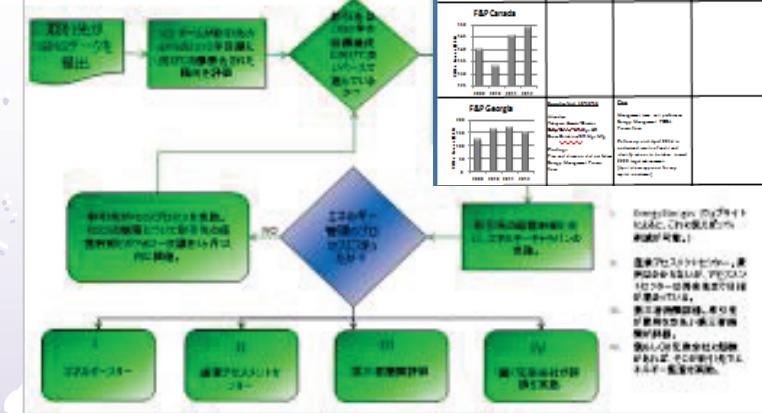


● 北米

- ・お取引先のCO₂目標と活動計画を共有
- ・現地訪問し経営層を交えたミーティング
- ・第3者を活用した環境アセスメント実施
- ・削減施策の決定およびPDCAの実施
- ・18社を訪問

Collect/Analyze GHG emission trend and results of MCIT targets	Plan Supplier's next step	Do Implement selected improvement	Check Assess results of improvement	Action Actions to close gaps in 2020 targets
Alpine				
Autoliv				
FAP Canada				
FAP Georgia				

北米キャラバン



優良感謝賞「環境賞」

● 優良感謝賞「環境賞」

- ・開発、原価、品質、パーツにて顕著な実績をあげられたお取引先に贈呈
- ・「環境賞」は2011年度に新設
- ・環境負荷低減において優れた取り組みをされたお取引先に感謝と敬意を表す



日本地域での表彰
(NOK様)



北米地域での表彰
(Rainsville Technology Inc.様)

より多くのお取引先に環境負荷低減への関心を高めていただくことで、ライフサイクルにおける環境負荷低減取り組みの拡大につなげていきます。

優良感謝賞に環境部門を追加してモチベーション向上をはかる

優良感謝賞 (事例)

●環境ドキュメンタリー Face

The screenshot shows the Honda Face website interface. At the top, there's a navigation bar with links for Honda, Clarity, Bike, Products, Sports, Technology, and Company Information. Below that is a sub-navigation menu for '環境への取り組み' (Environmental Initiatives). The main content area features a large banner for 'Case 30' titled '(株)ケーピン 生産本部 環境保全部' (Kepin Corporation Production Headquarters Environmental Department). Below the banner, there's a section titled 'EPISODE' with links for 1, 2, and 3, followed by 'TECHNICAL REPORT' and 'PROFILE'. A sidebar on the left contains a quote: '工場が進化していくためには、現場の意識改革がどうしても必要でした。' (For the factory to evolve, it is essential to change the awareness of the site). The main text discusses the challenges of waste reduction and the implementation of a waste classification system. It includes a photograph of a worker in a white coat operating machinery. The bottom of the page has a footer with a link to the full article.

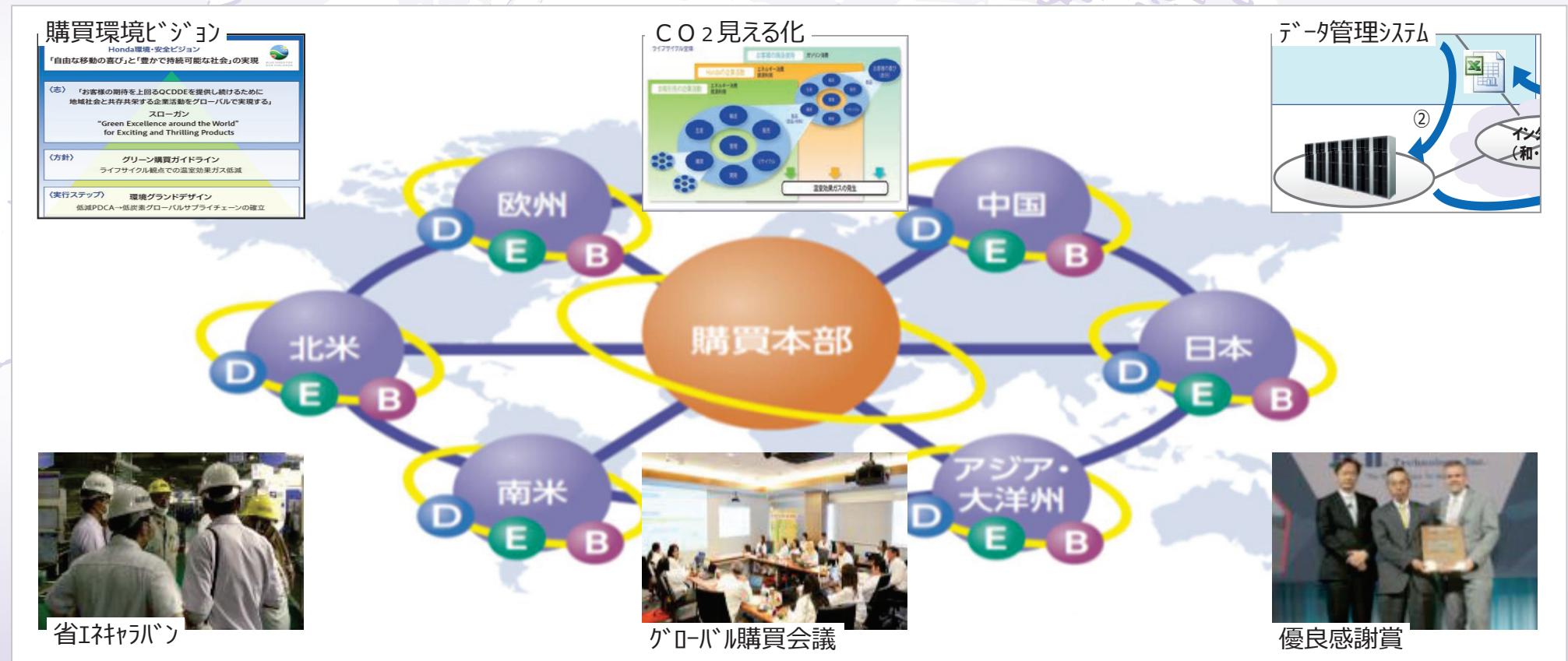
<http://www.honda.co.jp/environment/face/2013/case30/episode/episode01.html>

・世の中の環境意識に対応

- ・すべての企業活動において取り組む
- ・グループとしての思いを共有
- ・現場の意識改革

● 環境に優しい製品および企業活動によって、お客様に喜びをお届けする

- ・お取引先と一体化した活動による低炭素サプライチェーン構築
- ・何万とある部品すべての製造現場で、CO₂排出量の低減に取り組んでいく
- ・それぞれの地域の方々に受け入れられる企業活動



お客様の期待を上回る製品を提供し続けるために
地域社会と共に存共栄する企業活動をグローバルで実現する

5. 終わりに



BLUE SKIES FOR
OUR CHILDREN

更に詳しく知りたい方は…

Honda 環境への取り組み



環境年次レポート、サステナビリティレポート



環境ドキュメンタリー Honda Face



SNS e-PRESS Facebook





BLUE SKIES FOR
OUR CHILDREN

Thank you



BLUE SKIES FOR
OUR CHILDREN

こどもたちに青空を